

# 日本生物教育会愛媛大会現地研修「海コース」

辻 幸一

日本生物教育会第 59 回全国大会愛媛大会が、2004 年 8 月 4 から 2 日間、松山で開催された。この大会は高校の生物教員で組織している研究会の全国大会で、32 年ぶりに愛媛が開催県となった。全国から約 300 人の参加者を得て、松山市上野町の生涯教育センターを会場として、県内の生物教員全員が運営に関わった。総会の他、全国の生物教員による研究発表や研究協議、高校生の発表などが行われた。記念講演は京都大学霊長類研究所の松澤哲郎教授による「進化の隣人ヒトとチンパンジー」(松澤氏は松山市生まれ)と、愛媛大学沿岸環境科学研究センターの田辺伸介教授による「地球を巡る環境ホルモン-野生生物の汚染と影響-」の 2 題で、参加者の関心が高かった。

5 日の午後からは 4 つのコースに分かれて、現地研修が行われた。「光コース」は、しまなみ海道を經由して福山駅までのコース(参加者 14 人)、「愛媛の先端技術コース」は、愛媛大学無生物生命科学工学研究センターで遠藤弥重太教授の講義と農学部生物資源学科生物環境保全学研究室を見学するコース(34 人)。「森コース」は、面河山岳博物館の見学後、土小屋に 1 泊し、石鎚山での自然観察を行った(35 人)。

「海コース」(31 人)については筆者と 7 名の教員がスタッフとして担当したので、ここに紹介したい。まず、参加者とスタッフ総勢 39 名はバスで長浜高校へ向かった。ここでは重松 洋・松本浩司両教諭が、「長高水族館」を生徒と共に運営している。数百個の水槽に、身近な河川の淡水魚と瀬戸内海や宇和海の海水魚が多数飼育され、生徒が自然科学部の活動として毎日継続研究している。今回特に注目を集めたのはカクレマノミの稚魚が数百匹水槽で泳いでいたことである。これらは全てつがいの親魚から産卵され、稚魚から飼育を継続している。また、サンゴ(ソフトコーラル)の養殖も行われていて、個人名のプレートが付けられたサンゴの一部が、少しずつ成長している水槽

があった。廊下には淡水魚のコーナーがあり溪流のアマゴから河口のカワアナゴまで、生息域の順に展示・飼育されていた。これら全ての水槽は生徒の手によって管理されており、部員がそれぞれの魚について解説をしてくれた。約 60 分の滞在であったが、全国から参加している先生たちは、飽きることなく水槽をのぞき込み、生徒に質問していた。この長高水族館については、今大会 2 日目の研究協議第 2 分科会で重松教諭が「長浜水族館をとおしての環境教育」と題して実践を口頭発表し、参加者の注目を浴びた。また、記念出版物「愛媛の生物教育」には、「長高水族館を活用した課題研究」が掲載されている。

その後、バスに乗って、宿舎である国民年金健康保養センター「うわじま」に到着した。夕食後、

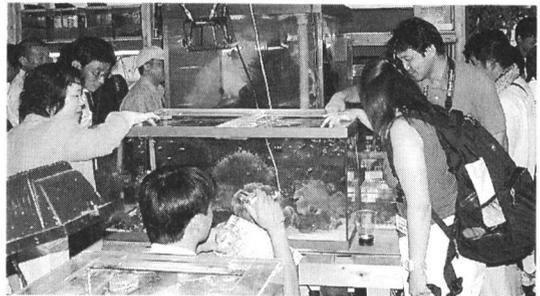


図 1. 長高水族館



図 2. 夜の研修

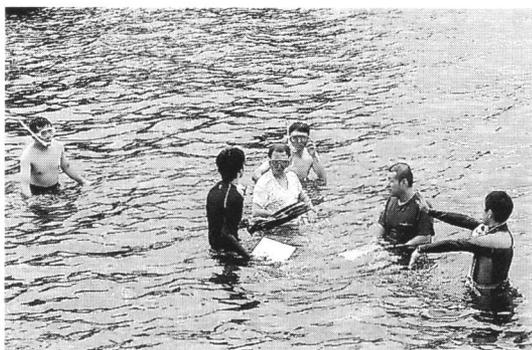


図 3. シュノーケリング



図 4. 稚魚採集



図 5. 鹿島

2名の講師による現地研修ガイドが行われた。宇和島水産高校の水野晃秀氏による「宇和海の魚類」では、これまでに確認された宇和海の魚類について写真を見ながら解説し、魚以外にもエビやイルカなどの海洋動物にまで話が及び、誰もが楽しむ

ことのできる内容であった。宇和島東高校の橋越清一氏による「鹿島の生物」では、鹿島で見られる植物を中心に鳥や鹿の話まで、盛りだくさんの内容であった。終了後は全国の先生方から質問が相次ぎ、充実した研修であった。

翌日は朝から土砂降りの雨となり、島に渡れるのか心配しながらバスで出発した。西海町船越に着いた頃から雨はあがり、海の色が明るくなってきた。鹿島では水中観光船「ガイアナ号」に乗り換え、海中観察を楽しんだ。その後、シュノーケリング、植物観察、稚魚採集の3班に分かれて約2時間自然観察の時間を過ごした。シュノーケリング希望者が最も多く、3点セットをレンタルしてコーラルビーチへ移動した。松本・重松・門田3氏のスクーバ潜水経験者によって、簡単なシュノーケリング講習の後、それぞれ海中観察を行った。透明度もまずまずで、カラフルな熱帯魚やテーブルサンゴが観察でき、好評であった。鹿島の植物観察希望者は標高213.6mの展望台までのコースを回った。約1時間の行程であるが、橋越氏の植物やシカの食害などの解説を聞きながら2時間かけて楽しんだ。砂浜では、水野氏が2名の参加者と引き網を使って稚魚採集を行った。海水浴場付近の海岸を数回網を引いただけで、カワハギやニジギンボ、ワタリガニなど予想以上の稚魚や幼生が採れ、砂浜の碎破帯にこれだけ稚魚が生息していることを実感させられた。弁当をニホンザルに取られるハプニングなどもあったが、予定していた研修を無事終えることができた。14時には鹿島を後にし、松山空港に向かった。

1泊2日の短い研修であったが、参加者からは、愛媛の南予地方の海について多く学ぶことができ、充実した研修ができたと好評であった。スタッフとして参加した7名の先生方の協力と日頃の研究成果が、この研修の成功の源であることを実感した2日間であった。

(つじ こういち 〒795-8502 大洲市大洲737 愛媛県立大洲高等学校)